

# 岐阜調狂俳にかかる 先人たちの遺稿

## 狂俳の作り方

—昭和五十年九月十五日—

沢田 嘰声 稿

狂俳の精神は、枯淡、幽玄、閑寂の俳句の趣の味を、簡明率直な漢詩の特色を併せ得て七五調でも五七調でも仮名十二字音を以て、一句を形づくります。

特にここで述べて置きたいことは「狂俳の作句精神」であります。単に上位句を沢山得られる人が優秀と思われ勝ちであるが、品位があり、高尚で精巧を極めた句を作ることが最も大切で、品位に欠けていいる句には尊敬を払うことは出来ません。

又如何に精巧な句であっても模倣、剽窃は恥すべきことで、自ら趣向を見出し、短い文章の間に品位を滲ませるよう心がけ、俗情に遠い花鳥風月を詠うときは兎も角、人事を詠む時などには心して句作すべきだと思います。  
俳句よりも更に短い詩でありながら、このように幽遠にして高尚な狂俳は、到底他の文芸の追従を許さぬ文学的素質を持っており、この格調高い世界的短詩が吾が郷土において二百余年の昔に創始され、益々発展しつつ存在していることは実に愉快であり誇りであると思います。

### 題句

七五調 穴 走らめ筈の馬走る  
五七調 英 薄脳に零れて白い

このように俳句よりも更に短い十二字の詩が四季、花鳥、乾坤、風物、神釈、恋、有情、無情等、社会の万般あらゆるものを持擁して、自由奔放に句作し、ユーモア即ち諧謔、風刺、滑稽等も交えて詠みます。そのユーモアが「狂」の字に当てはまると思ひます。

別項で述べましたように、狂俳の作句は、

七五調又は五七調の十二字調の音律で綴られるものであります。

俳句 花の雲鐘は上野か浅草か

狂俳 題 ちらちら 公園の碑に花吹雪く

こうして俳句と狂俳の類似句を並べて見ますと、狂俳は俳句の上五文字を題に置き換えたことが良く判ります。

さて、狂俳の作り方は、先ず題の解釈から始ります。そして題の中に含まれている訳や意味、状態など、つぶさに巾広く連想し、着想が出来たら、その着想が題から離れないよう文書や言葉の表現で作句する訳であります。句が出来終ったら更にその出来た句の中に題があるか、座五（括り五文字）はこれで良かつたか等推敲を繰り返します。句末はあくまで云い切る型の動詞で止める事が肝要であります。このように作句方法の原則は次

のようであります。

#### 一、題の研究解釈

#### 二、連想着想

#### 三、題の思索（物の道理をたどって考えをめぐらす）

#### 四、句作

#### 五、推敲

註、作句の中には題に使われている漢字は詠み込まないこと。

句の止め字は次の仮名十四文字の中どれか一字で止めること。

「る、いく、ぬ、す、む、な、つ、ゆ、う、り、ふ、ん、た」

随つて句の最後の止め字に漢字を使うことは許されません。又固有名詞とか、漢字を殊更平仮名で書く事も許されません。

#### 参考

膝枕 大望暫し愚に眠る  
ほろ酔い 次の梯子の掛け場撰る  
硯の海 恋の通い路筆で漕ぐ

点も判明するものです。

### 狂俳俳句について

狂俳の会に附隨して出題される俳句で、一般的の俳句の作り方とは些か異なり、特別な約束事があります。しかし俳句ですから五、七、五の十七音律で纏める事と、必ず季語を用いる必要があります。

#### 例

夏座敷 吕羽織召して開け放つ  
夏座敷 吕羽織召して窓閉める

二句とも夏座敷の句でありながら開と

開の文字の用い方で句意が大きく変ります。前者は従来からの普通の夏座敷であるのに対して、後者はクーラーの効いた現代の夏座敷でしょう。これを「裸になつて：」と文字を変えると上品さがなくなり、庶民的な生活句に変化していきます。

このように一字一句の使い方、云い表わし方によつて大きく変化する事もありますから出来上つた句を何度も読み返し推敲を重ねます。又声を出して読み返すと音律の良くない

#### 例、天地 ウメ

歌日記書くや庵に春の雨

このように句の頭と末尾の発音が課題の注文に添うように作句する訳でありますが、

